



復刊第138号
題字 吉岡弥生

巻頭言

高齢社会福祉ビジョンを策定

—— 細川首相施政方針演説 ——

(第二九回通常国会・三月四日)

副会長 佐藤千代子

細川首相は演説の中で、「二十一世紀を活力ある明るい福祉社会としていくために、年金、医療、福祉等の各分野のバランスのとれた総合的な「高齢社会福祉ビジョン」を早急に策定し、福祉社会の将来像と国民の負担のあり方についての国民的なコンセンサスを形成していく」と述べている。当面の具体的な課題として、(1)雇用保険制度、公的年金制度の改革、(2)ゴールドプラン、(3)医療保険制度、老人保健制度の見直し、(4)障害者対策の推進、(5)成人病、難病に対する総合的対策などである。

健制度については、付添看護にとまなう負担の解消や保険給付の範囲、内容の見直しなどを行い、医療サービスの質の向上や患者ニーズの多様化に適切に対応できるようにしていきたい。

「障害者対策に関する新長期計画」に基づいて障害者にやさしいまちづくりの推進など積極的に障害者対策を進めてゆく、がんを始めとする成人病や難病に対する総合的な対策を図っていく、とくにがん克服を目指し、「がん克服新一〇ヵ年戦略」を策定すると共に、エイズ対策については、拠点病院の整備や治療薬の研究開発など医療体制の充実につとめるとともに本年わが国で開催される国際エイズ会議の支援など、世界の

エイズ対策への貢献につとめていくとしている。(週刊社会保障より)

私どもは日々の診療の中で、患者さんの治癒した時の笑顔を最高の喜びとし、仕事の誇りとして医業に専念してきました。しかし現在は医療政策に無関心ではいられません。それは国の医療政策を認識することによって、治療の背景にある医療環境、先へ先へと進む患者さんの多様なニーズへの対応を把握し、広く国民の健康への展開を進めてゆくことができると思います。

かかりつけ医の制度化も必須となつてきています。制度化に際しては当然、医療担当者の主導のもとに進められなければなりません。

これまでは医療政策に関して各政党はそれぞれの異った見解を持っていました。今、連合政権が誕生した中で、各党の政策のすり合せが可能ではないかと思えます。国民の健康福祉のために集約されたより良い政策が作られてこそ連合政権の存在価値があるのではないのでしょうか。

エイズに関する小冊子の作成

今年、日本で開催される国際エイズ会議に際し、政府は世界のエイズ対策への貢献につとめてゆくことを宣言しました。日本女医学会では昨年より中・高生を対象としてエイズの啓蒙パンフレットを作ろうと事業部が企画、目下製本段階にはいっています。エイズの問題は正しい知識が何より大切であることはいままでも

もくじ

巻頭言	佐藤千代子 (1)
各部報告	
庶務部	南雲 君代 (2)
会計部	青井 禮子 (2)
学術部	田中 蘭子 (2)
広報部	稲生 襄 (3)
渉外部	野本 照子 (4)
事業部	川田喜代子 (4)
第5回公開講演会(於・仙台)	山本 蒔子 (5)
愛知県支部創立三十周年公開シンポジウム	野村多賀子 (5)
〈支部だより〉	
茨城支部だより	荷見ヒサ子 (6)
〈私の大学〉	
東京慈恵会医科大学	塩塚 瑛子 (6)
日本女医学会会員学位取得者一覧表	(7)
西太平洋地域会議ご報告(寄附芳名)	(7)
(収支報告)	(8)
「女性問題に関するオピニオン・リーダー懇談会」に出席して	松井ひろみ (9)
哀悼 西山喜代子先生	(10)
理事会議事録	(9)
会員動静	(10)
編集後記	(10)

ありません。女医会としては、興味を持って読んでもらうことのできる本をというのを前提に、漫画家に依頼し女医が登場するストーリーとなつています。完成いたしましたら、全会員の方々に配送いたしますが、学校保健の分野でご活躍の先生方にはぜひ広くご活用いただきたいと願っています。

役員改選

五月二十九日開催の今年度総会では役員改選が行われます。立候補者は

各部報告

庶務部

庶務部は副会長佐藤先生を中心に石原、二村常任理事、吉崎理事、南雲の四名で担当しております。長い間庶務部で活躍しておられました三好常任理事が昨年五月に逝去され、まことに残念なことでした。

南雲君代

演会をはじめ種々の行事が企画されておりますので、会員の先生方多数のご参加をお待ち申し上げております。

庶務部は申すまでもなく会の運営を円滑に推進するとともに会員の増加に努めなければなりませんの現実はなかなかきびしく、新入会員も順調に年々増えておりますがその反面自然退会の先生方も多く見受けられ、今後どのように対処すべきか理事会でも検討いたしておりますが、会員の先生方のお知恵をお借りして

会計部

青井禮子

現在会計部は青井、栗原、佐々木の三名で担当しております。

平成五年度は、国際女医学会西太平洋地域会議という大事業があり、会計部といたしましても大変緊張した年でもございました。またここ数年、前年度よりの繰越金が漸減の傾向を示しており、このことは、当年度が前年度に比し、事業が活発であったという証ともいえますが、一方、消費税、郵便料金等公共料金の上昇に呼応した諸物価の値上げが、会運営経費を押し上げてきているというこ

諸先生のご協力ご指導をお願い申し上げます。

職員の結婚、退職など移動があり、幸い会計は経理に堪能な正木事務員の継続勤務で助かっておりますが、三人の事務員がそれぞれ他業務にもある程度知識をもち補充し合えるようでありたいと痛感いたしましたので、庶務、会計各担当理事と事務局全員で、新公益法人会計基準の解説を教科書として、会計勉強会を行いました。講師は顧問の長島税理士、ご多忙の中、会長・副会長にもご出席いただきましたこと感謝申し上げます。

学術部

田中蘭子

平成三年五月の総会にて選出された新任の橋本葉子、平敷淳子、理事の平瀬文子、田中蘭子の四名が担当する事となりました。平成四年三月に平瀬文子理事が亡くなられ、三名

には急ぎ余白をうめるため会誌にそぐわない文を出させていたいただいた私の失礼をお詫びいたします。ご多忙の中を快く各方面からご寄稿をいただきました諸先生方に厚く厚くお礼申し上げます。なお事務の霜田さんには大変お世話になりました。

となり現在に至っています。年一回の学術講演研修会とワークショップが恒例となっており、年度順に挙げると次の通りであります。平成三年度 第五回ワークショップ 七月二十日 東京女子医大臨床講堂 「薬害について」 第十四回学術講演会 十月二十一日 京王プラザホテル 「細菌性ショックと生体防御機構」 内山竹彦 東京女子医大教授 平成四年度 第六回ワークショップ 六月二十七日 東京女子医大臨床講堂 「心身症」 第十五回学術講演会 十一月二十一日 京王プラザホテル 「患者が求める医療の心―臨床仏教学の提言―西来武治 医事評論家

性的のためにも、それぞれの地域の特色ある企画を募り地方で開催してはどうかと評議員会にはかることとなり、その結果は大方の賛成を得たので平成六年度より実行に移せるよう検討中であり、そのため平成五年度は少し形を変えて、第一回シンポジウムとして十一月二十三日、東京シテイクラブにて行いました。 「MRSA―現状と対策」

女医会の多数を占める開業医にとって現在の話題であるMRSAについて各現場からの話を聞く事ができ参考になりました。また講演会後の懇親会はゴージャスな雰囲気の中で料理もおいしく盛り上げましたが会場の構造上、椅子席の配置やスライドの映写などに問題もあつて反省させられる所となっております。今後の地方での開催の道しるべとなることを願っております。

広報部

稲生 襄

年四回(二月、四月、七月、十月)発行の会誌も今期の最終号となりました。会長、副会長に順番に巻頭言をお願いし、各種の記事を掲載させていただき、日本女医学会の活動が一目で分かる唯一の情報誌と思っております。総会や講演会その他に出席できなく

ともよくよく読んでいただければすべてがわかるようになっていきます。今期はあと十八年たたいと廻って来ないという国際女医学会西太平洋地域会議の記事が平成五年七月号にすべて載っており、とてもすばらしかったといまだに脳裡を離れません。かたい記事の他に、私の大学や支

第39回日本女医学会定時総会のご案内

総会まであと一カ月となりました。先生方にはますますお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。すでにお申し込みいただいておりますが、第39回定時総会を左記の日程のように開催いたします。

日時 平成6年5月29日(日) 場所 京王プラザホテル 〒160 東京都新宿区西新宿二二二-1 電話 〇三三三四四〇一一

総会終了後懇親会(会費 二一、〇〇〇円) 5月28日(土) 一、講演会(午後3時~午後4時半) 演題「C型肝炎」 講師・虎ノ門病院消化器科部長 熊田博光先生

二、ディナークルージング(約2時間30分) 初夏のさわやかな風に吹かれながら、東京湾の夜景をバックに、豪華客船でディナーをいただきます。 *費用 二〇、〇〇〇円 三、吉原松葉屋「おいらんショー」(約3時間)

江戸時代の夢のようなお大尽の遊びを味わいます。(食事付) *費用 一五、〇〇〇円 (二、三とも定員になりましたので、お切りさせていただきます。お申し込みありがとうございました。) (なお会誌137号に掲載しました(4)観劇東京宝塚劇場夜の部は、都合により昼の部のみとなりました。したがってこの企画は中止となりました。)

5月29日(日) 一、朝食会(東京都支部連合会会長招待) 懐かしい方々と久方ぶり楽しく、朝食を一緒にしましょう。(午前8時~9時) (ホテルに宿泊なさらない方もぜひどうぞ) 二、お茶席 おいしいお菓子とお抹茶で、疲れを癒してください。(午後1時~5時) 三、余興 懇親会にご出席の皆さまに、当代の名子役中村勘太郎、七之助兄弟による日舞をご覧に入れます。どうぞお楽しみに。

社団法人日本女医学会/東京都支部連合会

渉外部

「男女雇用機会均等法・労働基準法等の見直しについて」を中心に

野本照子

昨年からの先日までの期間、渉外部は表題のNGO連絡会に参加する機会が多く、松井先生と連絡をと...

勤の法的規制、週休完全二日制有給休暇の拡大などを早期に実現する。

事業部

川田喜代子

事業部に所属して白橋副会長をはじめ、橋川・白浜両常任理事に何かと指導をうけ、また、関口・丸茂...

医療奉仕への助成

平成4年、5年、と東京女子医大地域保健研究会へ三〇万円(ただし来期からはひろく公募の予定)助成。

支部助成

従来どおり一名につき二〇〇円還元。

年金

最近の経済情勢逼迫のため、将来のより安全な運営に備えて一部利率の見直しに踏み切りました。

平成五年七月に宮城県女医学会の臨時役員会が招集された。三品会長から仙台において平成六年二月に、日本女医学会の公開講演会をお引き受け...

第5回公開講演会(於・仙台)

宮城支部 山本蒔子

原稿依頼 会員の中から執筆者を依頼し、毎号記事を掲載中です。

ペンダントとルーペペンダント。日本女医史の販売

地方での公開講座やその他の会合のために皆さまにおねがいしている程度のおさめておりますが、今後ともよろしくおねがいいたします。

最初は河北新報、論説委員長の渥美重幸氏が「社会の変化、生き方の変化」と題して講演された。

愛知県支部創立二十周年 公開シンポジウム

愛知支部長 野村多賀子

二月二十七日、愛知県支部は創立三十周年記念行事として、記念式典・記念誌発行・公開シンポジウムを開催いたしました。

健康保健誌「いきいき」への

6 健康保健誌「いきいき」への 事業部としては平成5年10月より優秀なコンピュータ(マッキントッシュ)を入れ、島谷祐一嘱託が管理、年金事業も安田信託に全面的に任せることなく一応整理ができて喜んでおります。

平成5年度 日本女医学会会員学位取得者一覧表

(学術部) 平成6年2月28日

全国医科大学80校に調査依頼し53校より回答あり結果228名の学位取得者中10名の既会員がおり、会員外で住所判明の216名に入会のお誘いをし5名の入会あり。(※印は平成2年度学位取得者)

Table with columns: 支部, 氏名, 出身校, 卒年, 論文名. Lists members and their research topics.

- 西太平洋地域会議ご報告 (寄附芳名)
多数の皆さまのご協力により、西太平洋地域も無事に終了いたしました。
ここにそのご報告を申し上げます。
*
〈会員〉
北海道 北海道支部会、梅谷和子、奥山春枝、工藤たけあ、小柴美知路、武田正子、本間明子、水島淑子、吉田テイ
青森 浅水明子、阿部久代、石橋洋子、梅原文代、大垣節子、大津幸世、大橋良子、於本晴美、角田由美子、金田八重子、黒田迪子、相馬みどり、高松むつ、館田恭子、徳永恵子、永山浩子、花田チツ、平賀侑子、藤盛尚子、前田慶子、村上喜久子、村上れふ子
秋田 猪股テイ、細谷貴美子、松浦麗子、博田和山形 岸よし
岩手 水野綾子
宮城 今泉栄子、小田泰子、木下いづ、齊藤和子、佐々木和子、清水洋子、竹中美智、千葉潤、長池博子、中村マサ、三品房子、渡辺てる子
福島 小関玲子、草野道子、鈴木ヒサ
群馬 群馬支部女医学会、池上洋子、角田智恵子、木暮満子、小林

支部だより

「女性と環境」
埼玉大学名誉教授 暉峻淑子氏
「女性のライフスタイルと健康」
藤田保健衛生大教授 山本繡子氏
「健康でがんばらば」
女優 (アドバイザー) 山田 昌氏
(アドバイザー) 伊藤桂子氏
愛知県環境部長 伊藤桂子氏
(司会者) 日本女医学会副会長 佐藤千代子
講師のお話はそれぞれのお立場からの多岐にわたる内容で、女性の健康と環境についていろいろな観点か

茨城支部だより

昭和六十一年四月、前大貫京子先生(現在滋賀県大津市在住)から支部長をお引受けして平成六年三月で八年間がたちました。その間に私も吉岡弥生賞をいただきました。また特別養護老人ホーム(昭和四十七年、西山堂病院(昭和五十三年)、老人病院(昭和六十二年)、整形外科病院(平成二年)等)目まぐるしくつくり、これも主人亡きあと(昭和三十三年没)五人の子供を育てつつやっていた仕事でよくまあここまで来たものと思

茨城支部

荷見ヒサ子

いつつ一息ついているところですが、その代り日本女医学会茨城支部長としてはお恥しい限りで、大した仕事もできず、会員の方に顔向けができません。今回ようやく茨城県南の宮本佳子先生(東邦医大出身)にバトンをタッチをいたしまして、平成六年四月より支部長として新体制でやっていたことになりました。
以上のようなわけで大した働きもせず申し訳なかったのですが、支部長として総会へはいつも出席いたし

私の大学「東京慈恵会医科大学」

まして先輩後輩の皆さまやクラスの方々と会っては日本女医学会の雰囲気を感じて帰りました。
さて支部だよりから外れるのですが、高齢化社会の到来で私自身も七十歳をはるかに超えてきますと他人ごとではございません。幸い女医であることである程度健康管理は自分ででき、また私の子供たちはおそろく全員医師になるだろう、私は子供をあてにできない、そのときのためにと老人ホーム西山苑をつくったわけですが、そこで死のために老人同

神奈川支部

塩塚瑛子

明治十四年五月一日学祖高木兼寛によって開かれた成医会講習所が母校東京慈恵会医科大学の始まりである。また明治十五年八月に設立された施療病院施設の東京病院が現在の大学病院の前身である。明治二十四年に成医会講習所が成医学校に、ついで東京慈恵医院学校に改称され、さらに明治三十六年五月十八日東京慈恵医院専門学校に昇格、同年七月二十五日一五名が入学、現在の大学の原形が出来た。大正十三年東京慈恵医科大学と大学に昇格し、昭和二十四年新学制度により学校法人慈恵大学・東京慈恵会医科大学となり、

お願い
会員名簿作成のため、住所、電話番号の変更、または改姓等がありましたら、至急、ハガキで事務局までお知らせください。
庶務部

昭和三十五年に進学課程が新設され、六年制の大学になった。
学祖高木兼寛は、明治から大正にかけて当時死病と恐れられた脚気の予防、治療法を確立したことで知られ、また病人の痛みを分る医師と看護婦の養成を願って、成医会講習所(本学の前身)を、そして明治十八年に看護婦教育所(わが国最初の看護学校)を設立している。高木兼寛の「病気をみずして病人をみよ」の言葉は病める人間の痛みを共感できる医師を養成しようとした深い人類愛に根ざした精神に由来しており、母校大学の基本理念になっている。

大学附属の施設は、本院、青戸病院、第三病院、柏病院の四病院(合計二千七百六床)、四病院それぞれに附属看護専門学校があり、また慈恵大学に四年制の看護学科がある。大学附属病院には、わが国で最初に開設されたスポーツ医学科を含む健康医学センターがあり、大学附属施設として実験動物センター、アイソトープセンター、卒後教育のための生涯教育センター等の共用研究施設もつくられている。
女子卒業生の中から微細形態研究部田中久子教授、細菌学教室や内科学教室に講師五名、また各科に多数の女医が助手として診療、研究、教育に貢献しているが現職としての数は非常に少ないのが現状である。女子学生は全学年六七〇名中八七人と他大学医学部に比べてやや少ないが、女子学生の成績は常に優秀で今年度卒業生の最優秀賞は女子学生に授与されている。今後さらに女子学生入学の増加と卒後の女医としての一層の活躍が望まれる所である。

西太平洋地域会議収支報告

平成6年3月3日現在

(単位:円)

Table with 2 main columns: 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure). Includes sub-headers like 寄付金, 謝礼, 国内移動費, etc.

差引残額 15,045,719

- List of names and affiliations, organized by region: 北, 江東, 渋谷, etc.

「女性問題に関するオピニオンリーダー懇談会」に出席して

目黒支部 松井ひろみ

平成六年一月二十八日、「女性問題に関するオピニオンリーダー懇談会」に...

(1) 「デンマークにおける男女平等委員会の活動状況と課題」...

権があるので情報を集め、あらゆる点で、解決できない場合には、裁判に持ち込んで、その意思を通した...

「事業部」 丸茂理事 エイズの小冊子、仮題「もつとエイズを知らう」校正に入る。...

「学術部」 橋本常任理事 1月21日国連NGO国内婦人委員会「第48回国連総会報告会」について...

滋賀 大貫京子、山元真理子 大阪第1 大西洋子 大阪第2 大坂節子、川田喜代子...

・第1回シンポジウム(11月23日)の会計報告。
 平成6年度事業計画案および予算案について
 ・次回常任理事会まで各部の事業計画案と予算案を検討、作成、提出のこと。

吉岡弥生賞審査委員会、荻野吟子賞、学術助成選考委員会開催日について
 ・2月24日(木)午後4時30分より日本女医学会議室において行う。
 ・学術助成選考委員は候補者に順位を付けてくる。

総会について
 ・東京都支部連合会との話し合いの報告。

(1)三年ごとの東京における総会、選挙は従来通りに本部が行う。
 (2)都支部はこれを全面的に援助し、総会に伴う諸行事(講演会、前日のイベント、懇親会の余興など)を企画実行する。
 (3)朝食会は都支部連合会今野会長の招待。
 選挙について

・立候補は告示後六〇日、3月30日締め切り。
 ・選挙方法は前回通り(一〇名連記)とする。

その他
 ・山崎会長より「西太平洋地域会議」に出席したタスマニアのDr. Joyce Beardallが来日し、医療の現場をみたいとの希望があったので、女子医大小児科、産婦人科を見学できるように手配中である。何かの時は先生各位にもご協力願いたい」とのお話があった。
 ・小田理事より「2月19日、仙台での公開講演会に多数のご参加を」との要請があった。

・橋本常任理事より「来年度より、国際女医学会を含めて女医学会の關係している会の年間スケジュール(年、月、何が、どこでなど)の一覧表を作ってはどうか」と提案があり全員賛成で決定する。自分の知っている範囲で事務局に連絡すること。
 ・定款改正委員会の名称を正式に

哀悼 西山喜代子先生

前監事西山喜代子先生(昭和十四年、東女医卒)は、去る一月二十八日急逝されました。三十日通夜、三十一日告別式(共にご自宅)が行われました。

かねて地域医療にご熱心な先生でしたが、病をおしてご診療中、虚血

性心不全で白衣のままご世界にられました由、痛恨の限りに存じます。先生は日本女医学会監事を平成三年五月まで三期おつとめになりました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本女医学会

「定款検討委員会」とする。

以上
 副会長(庶務部担当) 佐藤 石原、二村

会員動静

- 新卒会員(敬称略)
 岩手支部 歳弘真貴子
 江戸川支部 江林理慧
 新宿支部 酒井のぞみ
 福島佐和子
 目黒支部 大根田和美
 都下東支部 東理佐子
 大阪第10支部 鈴木七重
 兵庫支部 今枝登美子
 沖繩支部 幸地綾子
 入会会員(敬称略)
 埼玉支部 千葉素子
 新宿支部 上東彰子、齋藤啓子
 神奈川支部 吉永陽子
 高知支部 河本昭子、内田邦子
 松岡耐子
 長崎支部 藤原千鶴
 退会会員 十三名
 物故者(敬称略)
 渋谷支部 西山喜代子
 杉並支部 山本ハルミ
 山梨支部 小池京子



集記 編後

夜はオーバーの欲しい不順な候ですが、一週間おくれで東京の桜もようやくほころびました。

会誌も今期の最終号となりました。電話やファックスの威力を借りながらお忙しい先生方から原稿をいただき割付けに一回、校正に一回と、毎号二回は広報部員の集まりをもってできるのですが、出版社、事務局の手ぎわのよい事務処理でお手許に届けられます。私どもとしては読んでいただくのが、何よりの喜びなのです。隅から隅までとは申しませんがご愛読いただきたい一心で、部員一同努めさせていただきます。

八〇年代初頭に米国で発見されたエイズは世界中で猛威をふるい、この夏にはアジアではじめての国際エイズ会議が横浜で開催されます。米国の患者延べ三十四万人、感染者は百万を越え、アジアでもタイなどで急増しており、何十年後には亡国病ではないかと恐れられています。

開業医の高齢化がすすみ、加齢とともに医療行為は低下し、億劫になります。若い医師の後継者を望むこと切なるものがあります。長命もよいのですが、健康でなければいけません。医師も自分の体に無理をせず豊富な経験を武器に、地域医療にそれぞれががんばってほしいものです。

卒業、入社時期ですが、今の若

者の悩みとして、その幼児性がいわれています。「ピーターパンシンドローム」とか「青い鳥症候群」といわれ、大人社会に仲間入りできず、自己に対する攻撃に大変弱い、子供のような大人がふえているといわれています。その原因は父子関係にくらべて母子関係が深すぎる家庭環境のためといわれています。結婚してもマザコンが抜けきらず、離婚の原因にもなります。

さて本号には今期のしめくりとして各部報告をいただきました。仙台や名古屋での公開講演会の記事は今後の参考になると思います。西太平洋地域会議の会計報告や寄附者一覧もぜひお目通し願いたいものです。

五月末の日本女医学会総会は、東京都支部連合会企画による、「C型慢性肝炎」の講演のあと、すばらしい前夜祭の行事がありますので、全国の会員の皆さまもぜひご参加下さり新緑の東京を思いきり堪能して下さいと念願しております。(稲生)

平成6年4月20日 印刷
 平成6年4月25日 発行
 編集人 稲生 裏
 発行人 日本女医学会
 発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル
 社団法人 日本女医学会
 ☎三三九九八-〇五七
 FAX三三九九八-一八七六九
 東京都文京区水道1-5-16
 株式会社 金剛出版